

# みつぎ便り

118号  
7月号

板橋区役所みどりと公園課の花づくりグループと  
エコポリスセンターの環境観察員地域自主活動グループに  
所属しているボランティア団体「見次の会」です

平成28年7月1日

<http://itbs-ecopo.jp/projects/environsurvey/2013/000253.htm>



## マツバボタン (松葉牡丹)

昔から馴染みのある花ですが、この夏、見次公園に初めてやってきました。原産地は南アメリカです。太陽の光を浴びると開花し、午後には萎んでしまうので日照草(ヒゲリソウ)。爪で切っても増やせることから爪切草(ツメキリソウ)。種からの発芽が年々少なくなつて花数が減つていくことから不亡草(ホロビンソウ)等、色々な和名を持っています。

花言葉は『可憐』、『無邪気』です。気短な青年が友人とケン

カをして銃を抜いた時、足下に、無邪気に咲いている松葉牡丹を見て、思い留まったというエピソードもあります。

いくつもの名前や面白いお話のある花ですが、東京の夏の暑さは厳しすぎるようで心配です。見次公園の花壇の土は、保水性も養分も乏しいので、見次の会の会員が培養土や腐葉土を混ぜて、花の生育が少しでも良くなるよう頑張っています。

そんな会員の努力にあって、暑さの中でも松葉牡丹が咲いていられるように、皆さんも応援してくださいね。(静)

## イエバエ (家蠅)

今年もまた暑い夏がやってきそうですね。こんなとき、家の窓や扉を開け爽やかな風でも入れようかな、とお考えの皆さん気をつけて下さい。外からは嫌われ者のイエバエが進入してきます。

厄介者のハエですが、よく観察するとユーモラスな仕草をします。思わず笑ってしまいます。この様子をかの有名な小林一茶



が「やれ打つな 蠅が手をする足をする」と詠んでいます。一茶は、蠅が人に打たれそうなきに見せる姿をみて、「助けて！私を打たないで！」と、ハエが必死に揺んでいるように見えたらしいです。実はこの仕草、ハエの足先にある味覚を感じる部分のお掃除をしているためで、揺んでいるわけではないようです。

自然の草木、生き物などゆつくりと細部まで観察することにより、いつも見逃していた見えなかつたものの姿がみえて来るようです。公園の散歩がてらチョット足を止めて周りを見回してみてください。(圭)